

連続シンポジウム第2回 群馬音楽センターと DOCOMOMO20 選



日時	7月26日(火) pm 1:10~3:40
会場	高崎シティギャラリー・コアホール
主催	群馬音楽センターを愛する会
共催	日本建築学会群馬支所、DOCOMOMO Japan、NPO 法人高崎哲学堂、 日本建築家協会群馬地域会
会費	無料(申し込みは当日会場にて)

趣旨説明	水上勝之(建築家・群馬音楽センターを愛する会代表)
コーディネータ	兼松紘一郎(建築家・DOCOMOMO Japan 幹事長)
パネリスト	鈴木博之(DOCOMOMO Japan 代表・青山学院大学教授・明治村館長) 岩崎淑(ピアニスト・カザルスホールを守る会代表) 隈研吾(建築家・東京大学大学院教授) 中原まり(司書・米国議会図書館)

その生涯を地元の文化活動にささげた実業家井上房一郎と親交のあった建築家、アントニン・レーモンド[®]の設計によって建てられた「群馬音楽センター」は、今年で開館50周年を迎えます。

映画「ここに泉あり」(1955年)によって全国に知られるようになった高崎市民オーケストラ(現在の群馬交響楽団)の活動がきっかけになって市民運動がおこり、多くの市民の寄付金を受けて完成されました。「昭和三十六年ときの高崎市民之を建つ」と刻まれた音楽センターの前に立つ石碑が、当時の市民の熱い想いを物語っています。時を経て、このホールの存続については様々な論議がなされてきましたが、DOCOMOMO20選に選定されたことが、保存・活用の支えになっているといわれております。

本シンポジウムでは、DOCOMOMO<モダンムーブメント(モダニズム)にかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織>を紹介し、この音楽センターに内在する物語や魅力を語り、存在する意義などについて意見を交わします。